

1. 科目名 (単位数)	幼児体育 (2単位)	3. 科目番号	SJMP1142 SSOT2423 SCOT2423 SJMP1142 SJMP1142
2. 授業担当教員	濱野 ゆうり		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	体力や運動能力の低下が報告されていることは周知の通りである。そこで、保育者として幼児や児童の発育発達に大きく関与する訳であるから、遊びや身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、学生自身の身体能力や運動技能を高めることが重要である。また、保育の中で取り上げる運動あそびに関する教材を作成したり、学生同士で声掛けなどを実践しながら具体的な指導法を学習する。運動あそびにおける安全管理、それらに必要な知識や技能を習得する。		
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1,自分の体を自分でコントロールする能力を養い、運動技能を高める。(具体的には、走る・スキップ・ギャロップなどやマット・跳び箱・鉄棒などが、子どもたちの見本となる様にできること。) 2,子どもの運動あそび、リズム、身体表現の楽しさを味わい、指導・援助の方法の理解を深め、指導・援助ができる。(指導方法や声掛けなどを学ぶ。) 3,リズム体操、身体表現の教材がつくれる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【実技試験として】模擬授業の実践 (計画・教材づくり・実践・振り返りまでを含みます。)</p> <p>【課題レポートとして】現代の子どもを取り巻く環境について考察したうえで、子どもの発育発達に必要な身体活動と環境についてのレポート (詳しくは、講義で指示する。)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】適宜資料を配布します。</p> <p>【参考書】</p> <p>幼児体育 理論編 日本幼児体育学会 前橋明 編 大学教育出版 幼児期運動指針 文部科学省 2012 幼児期運動指針実践ガイド 日本発育発達学会編 杏林書院 2014 幼児期からのアクティビティブチャイルドプログラム 公益財団法人日本体育協会(スポーツ協会)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体力や運動レベルの差が大きいので、自己への挑戦・前向きな姿勢 (出席状況含む) を評価基準とする。 2. 実技試験への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、幼児体育への考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加態度 50% (出席状況や意見発表を含む) 2. 実技試験・課題レポート 40% 3. 振り返りのレポート 10% <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の授業内容を記録するためにノートを用意することが必要です。最終授業で提出を求めます。 ・運動あそびの計画には、しっかりと時間を割り、資料収集を十分に行ってください。実践準備は、授業内だけで完結することは困難です。グループでの検討や作業は授業時間外の準備を怠らないことを望んでいます。この活動は、評定の方法の「授業への積極的な参加態度」に反映します。 ・常に、保育者として子どもや保護者の前に立つことを意識し、髪型や服装等の身支度を整えて下さい。また、実技の際には、運動にふさわしい服装 (ジャージ、Tシャツ等。ジーンズ禁止) で参加しましょう。 ・グループワークや模擬授業など、実践を通した授業を実施しますので、遅刻や欠席の内容に自身の健康にも十分気をつけてください。 		
13. オフィスアワー	初回の授業で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 現代社会の環境と健康課題について ～子どもを取り巻く環境の変化～	事前学習	ノートを1冊準備し、現代社会の健康問題について自分の考えを記入しておくこと
		事後学習	1回目の講義内容を受け、現代社会の環境が子どもの発育発達にどのような影響を与える可能性があるのかをまとめておく。
第2回	子どもの発育発達における運動の意義	事前学習	子どもの発育発達により良い環境とは？保育者として配慮できる点を考えまとめる。
		事後学習	0歳から11歳までの発育発達段階について予習しておく。
第3回	子どもの発達段階に応じた運動遊びについて	事前学習	幼児期になぜ運動が必要か？「幼児期運動指針」(文部科学省2012)を参考に自分の考えをまとめ、発表できるようにする。
		事後学習	グループワークでの学びを考察する。
第4回	乳幼児期の運動機能と心の発達	事前学習	カウプ指数について調べる。
		事後学習	乳幼児期の発育発達の特徴を調べる。
第5回	子どもの体操(リズム体操・こども体操)の保育実践	事前学習	幼児期の子どもに適したリズム体操を覚えて

			くる
		事後学習	新しく知ることができた体操をまとめる。
第6回	小型遊具・操作性の遊具を使った遊びの保育実践① —ボール・なわ・フープ・棒など—	事前学習	小型遊具を使った遊びを3つ考えてくる。 グループ発表の準備を行う
		事後学習	本日の発表の実践と振り返りを記録し必要な 点の資料収集を行い、ノートに記録する
第7回	小型遊具・操作性の遊具を使った遊びの保育実践② —ボール・なわ・フープ・棒など—	事前学習	操作性の遊具を使った遊びを3つ考えてく る。グループでの発表準備を行う
		事後学習	本日の発表の実践と振り返りを記録し必要な 点の資料収集を行い、ノートに記録する
第8回	大型遊具や固定遊具を使った遊びの保育実践① —とび箱・マット・平均台・巧技台・すべり台・ぶらん こ・鉄棒等—	事前学習	とび箱とマットを使った運動遊びの環境設定 を考え、図に描く。
		事後学習	本日の発表の実践と振り返りを記録し必要な 点の資料収集を行い、ノートに記録する
第9回	大型遊具や固定遊具を使った遊びの保育実践② —とび箱・マット・平均台・巧技台・すべり台・ぶらん こ・鉄棒等—	事前学習	平均台・巧技台を使った遊びの環境設定を考 え、図に描く。
		事後学習	固定遊具を使った遊びを3つ考えてくる。
第10回	身近な素材を使った遊びの保育実践① —新聞紙・ひも・ペットボトル・テープ・段ボール—	事前学習	身近な素材を使った運動遊びを3つ考えてく る。
		事後学習	本日の発表の実践と振り返りを記録し、必要 な点の資料収集を行い、ノートに記録する
第11回	身近な素材を使った遊びの保育実践② —新聞紙・ひも・ペットボトル・テープ・段ボール—	事前学習	運動会の企画として、個人種目を考え、図に 描く。グループでの発表準備を行う
		事後学習	運動会の企画として、団体種目を考え、ノー トに記録する
第12回	運動会の企画と運営 —本番までの取り組みと本番でのアイデア—	事前学習	運動会のダンス種目にふさわしい音楽を選 び、準備してくる。
		事後学習	グループワークの内容をまとめ、考察する。
第13回	伝統的な遊び・自然とかかわる運動遊び	事前学習	自分の住んでいる地域や関心のある地域の伝 統的な遊びを3つ調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	自然とかかわる運動遊びについて、四季（春 夏秋冬）を2つ選んで計画を立てる。
第14回	幼児期の栄養と運動	事前学習	現代の食生活が子どもに与える影響について 調べ、まとめる。
		事後学習	幼児体育指導上の安全対策についてまとめ る。
第15回	安全対策とリスクマネジメント ～安全な運動遊びの実践に向けて必要な点について～ まとめ	事前学習	子どもの体力増進について、2030年までの施 策を考え、発表できるようにする。
		事後学習	これまでの学習から、幼児体育指導者として 必要な点・自分の課題や目標をまとめる。 ノートを提出する。
15. 実務経験を有する 教員特記事項	中学校および高等学校の保健体育科「保健分野」及び「体育分野」の担当教員として、また、幼児体操教室の講師としての実務経験を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		